

海についての説明

海への入会希望者からいただきました、多方面にわたる質問内容を踏まえ、「海についての説明」を下記のとおり作成してみました。

参考にしていただけたら、幸いです。

なお、これは「海」についての説明でありますので、他の同人誌の方針や考え方とは当然のように異なることとなります。他の同人誌への入会をお考えの場合は、当該誌へお尋ねいただきますようお願いいたします。

また、海以外の同人誌の関係者にあられては、「同人誌とはこんなものではない」というご意見が大いにあろうかと思われます。この項は、あくまで「海」に限っての説明でありますので、ご不審の点等があるやもしれませんが、なにとぞご海容に願ひ上げます。

2024年3月30日

有森信二

.....

海についての説明（〇〇氏へ）

注：内容は有森の私見です。

初めまして。海の有森信二という者です。

海には主宰や指導者を置いていませんので、私は発行責任者という立場にあります。言うなれば、海の事務方という立場にある者です。

お尋ねのありました海について、簡単に説明します。

1 同人誌とは

まず同人誌とは、（海は文芸の同人誌ですので）「**文芸作品を書こうという志を同じくする者が、自らの経費を負担し、自らの目指す文芸作品を生み出す**」というものだろうと思います。

ここには、「文芸誌の作品が評者の目に止まり、職業作家へと転身する」という道が閉ざされたわけではありませんが、現在の厳しい世情や現状を見るとき、「同人誌作家から職業作家への転身は、特別の場合を除き、あまり期待できないことだろう」と思えます。

とはいえ、同人誌作家も、れっきとした作家です。世にもてはやされている作家同様、志は高いものがあると言っても過言ではありません。

同人誌作家であるためには、経費を自ら負担してまで書くということになりますので、「**できれば定職を持ち**」（意外と大切です）、「**自らの目指すものを書き続ける**」（続けるということが大切です）という形が、望ましいものと思われます。

2 同人誌が成り立つ基本となるもの

先に書いたように、1) 自ら経費を払ってでも、「文芸作品を書こうとする確たる意識」を持っていること、2) 自らの「応分の経費は必ず負担する」こと、3) 所属する同人誌のメンバーとの良好な関係が保てること、という要件がどうしても必要になります。

繰り返しますが、発表するための（妥当なレベルの）文芸作品が書け、応分の経費を負担する、という約束が得られなければなりません。同人誌の印刷、発行、送付、通信等のために、この経費の全てを用いることとなります。

3 海について

1) 海は、2024年7月発行号から「新たな海」となり、年に2回の発行をします。

同人費は、1回の発行毎に、10頁までの執筆者（執筆がない場合も含む）は「10,000円（同人の基本負担額）」となっています。

ただし、11頁以上執筆される場合は「執筆頁数×1,000円」の額となります。

小説の場合の1頁は、「27字×24行×2段→1,296字：400字詰め約3枚」ですので、60枚で（20頁程度）は、20,000円程度で掲載できます。

これが原稿用紙100枚分の作品だとしますと、約32頁程度になりますので、同人費額は、32,000円程度となります。

もっとも、実際の割付により頁の算定をすることになります。（上記は仮の計算です。）

2) 経費負担のことで言えば、発行が年に2回ですから、同人という身分にあれば、年に10,000×2回＝20,000円が最低限必要だということになります。

※ 同人費の支払いは、月々にではなく、年2回の発行時（発行時期の目安→1月、7月）としています。（原稿締め切り日は、発行日の1年半前とします）

3) 海の合評は、初期の時代（1987年の創刊）は「厳しいことで」知られていました。

現在は、それほどの厳しさを出さないようにしています。構成員が全国に広く居住し、1か所での集まりが持ち難い、という目下の事情があります。

主たる交流は、海交流掲示板やメール等での意見交換を中心に、鋭意行っています。

4) 海の目標とするところについて

ア) 海は、文芸作品を発表する場であり、かつ、広く、遠くに運ぶ場である。

イ) 海は、文芸を志す者同士の交換の場であり、海的主人公は、同人個々である。

ウ) 海は、生涯にわたり、文芸にかかわっていくための場である。

エ) 海の同人は、自身の真摯な、やむにやまれぬ表現の発露として、小説、評論、詩、エッセイ等の文芸作品を創作し、発表する。

オ) 海には、編集に関することをを行うため、編集担当者で構成する編集委員会を置き、編集委員会に発行責任者を置く。

カ) 編集担当者は、第一に作者であり、併せて編集・発行の作業を行う。

キ) 海の同人は、定められた同人費を納入する。

ク) 海は、年2回の発行をめざす。

以上のことを何度となく繰り返してきましたが、再掲してみました。

これが、海の「憲法」です。この憲法をもって、1) 表現する、2) 発表する、3) 到達する、4) 生涯現役、5) 山を移す、という目標を掲げて活動しています。

同人の中には体の不自由な方もおられ、この発表を励みにしておられるようです。

同人各位は、それぞれが互いの素性を殆ど知りません。海誌上に掲載するのは、1) 作品を書くための名前（筆名で可）、2) 住所、3) 電話番号、4) メールアドレスのみです。

編集担当者も発行責任者も、一同人であり、編集・発行等の作業を、自らの作品の執筆を行いながら、ボランティアとして種々の事務的なお世話をしています。

編集担当者も、発行責任者も、同人各位も「同列にあり」、上下の関係は全くありません。

海として、優れた作品を称揚することはあっても、監督したり、干渉したりすることはいたしません。個人的な付き合いは、たまに開催される懇談会等の場を除き、まずありません。

交流するのは、作品においてのみ、と言っても過言ではありません。

※ 気の置けない同人同士で種々意見交換をするということは、大いにあり得ることです。

5) 海で何が出来るか

随分不安になられるかもしれませんが、1) 個々が多方面の文芸作品等と向き合い、2) 個々が自分の文芸作品を生み出す、ということになります。

敢えて指導者を置いていませんので、3) 自らの作品に自らが責任を持つ、4) 自らの創意工夫によって自らと向かい合い、社会と対話することが出来る、5) 公募などにも自発的に応募する、ということでしょう。

社会からの反応は、結構多くあります。

6) 入会の前に特にお願いしたいこと

同人には、**現在2冊を送付すること**にしています。お買い上げの義務もありません。

ところが、反対に「自作の掲載された冊子を多数ほしい」と申し出られる新入会者が相次いでいます。**総作成部数200冊**ということで**現在の同人費を設定し、まかなっております**。用途は、同人・図書館・メディア・批評家・他の同人誌等に配送することで、**190冊近く**を用います。少冊数の若干の予備は設けておりますが、「数十冊ほしい」というような希望には添えずにおります。

同人が自ら経費をできるだけ平等に負担し、その範囲で作成しているものです。そのバランスを考慮いただき、「個人への献本冊数等は精選」の上、利用くださるようお願いいたします。

海のHPでは、個々の方の作品が読め、印刷も可としておりますので、こちらを有効にご活用いただくという方法もあります。

ただし、数年前から、特別にお願いして印刷所に若干の冊数を作成していただき、「1冊200円で『追加頒布』を行うようになりましたが」これは、本当に必要な方のみが申し込むものですから、必要のない方へ「強制頒布」を企図するものではありません。

4 文芸作品について

1) 詳細はHPに書いておりましたが、ここで「文芸作品になる」ということは、エッセイや小説であれば「新聞記事レベルの文章によって作品が書け、自分が納得出来る」ということですので、それほど難しいものではありません。（それほど簡単なことでもありません）

ともかく、経験を重ねながら、海の同人や、第三者であるマスコミ等の評者、読者のメガネにも耐え得る、ということを目指します。

(掲載の可否に疑義があれば、編集委員会が判断します)

下記(1)～(3)は、海HPに掲載している事項です。

(1) 普通に日本語で理解できるように書かれていれば、特定の個人攻撃や、特定の政治や宗教等に偏ることなく、特別に公序良俗に反する等の内容のものでない限り、掲載される予定です。

(2) したがって、同人費を、割付終了確認後、所定の口座に振り込んでください。

(3) 寄稿されない場合も、同人基本負担額を○月○日までに振り込み願います。

2) 以上のような要領・範囲・内容で、自由に作品を書き、発表し、社会に届け、社会からの反応を得ています。

3) 文芸は文章で表現するものですから、「文章作法」等について、継続した努力が必要です。

4) 純文学云々については、特に問うてはいませんが、その傾向にはあるようです。

5 他の同人誌について

参考までに、知りうる範囲の情報を簡単に記します。

1) 文芸同人誌案内：で検索すると、たいへん親切で貴重なHPが閲覧出来、全国のかんりの同人誌の動向を知ることが出来ます。ここで、情報を得るという方法もありましょう。

2) 九州には、全国にも名の知れたK誌を中心とする有力誌が多くあります。

6 職業作家を目指す場合は

1) 純文学系であれば、文学界、群像、文藝、新潮、すばるなどの新人賞等を目指すのが、一番でしょう。これは、運と才があれば芥川賞方面に繋がる可能性もあります。

また、九州芸術祭文学賞を目指すのもよいかもしれません。これも、芥川賞系です。

2) 上記以外の新人賞等を目指すのもよいでしょう。こちらの多くは、運と才があれば直木賞方面に繋がる可能性もあります。

3) その他、「公募ガイド」等により調べるのも賢明な方法かもしれません。

4) 新人賞等の場合は、45歳あたりに年齢の上限があるようです。

.....

以上、海についてを主にした総論を述べました。

その他、思い付いた事項を列記します。

- 7 海は、詩、エッセイ、評論、小説、俳句等の文芸作品を広く扱っています。
- 8 同人費にかかる経費ということであれば、小説や評論を書かれる場合、海は恐らく安価な方ではなかろうか、と思います。ただし、詩などの韻文の場合は、この限りではありませんが。
- ※ 海では、経費負担を低く抑えるために、電子メールを使用することにより、諸連絡等を行うことを原則としています。
 - ※ 原稿の執筆に当たっては、マイクロソフト・ワードでの作成をお願いしています。
- 9 入会のことを判断するにあつては、同人誌の社会的認知度というものもあり、これには指導者が必要だとか、構成員に知り合いがいるとかいないとか、内容に好き嫌いがあるとか、それぞれに一長一短がありましょう。
- 1) 海では、新人もベテランも何の区別もありません。同等です。
 - 2) 年に2回、(確実に) 作品を世に問うこととなります。
 - 3) 他誌との重複在籍も、問題にいたしません。
- 10 海はこれらを、かなりの程度みたしているものと思っておりますが、ご自身でよくよくお考えくださることをお勧めします。
- 11 入会を検討するため、海の冊子が入用であれば、お知らせください。
もともと、海のHPには冊子内容の殆どを公開していますので、それで一応のことはわかるようにしております。
- 12 さらに、海としては次のようなことも考えておりますので、ご参照ください。
- 1) ペンを攻撃の手段にしない、ということをお勧めします。
 - 2) 事実をそのままに書くことだけが、(私) 小説となるものではありません。
 - 3) どこかの公募に出してみる、というぐらいの時間を置く方がよい場合もあります。
 - 4) あくまで、文芸(文学) 作品を書く、というふうに考えていただくことを希望します。
 - 5) 小説は小なる説を書く。つまり、話を創り、書くということにより成るものだと考えます。
 - 6) 抱かれる諸々の念も、作品として昇華されたときに初めて普遍性を持ち、読者の同意を得ることになり得るのだと思います。
- 13 文章を一定のレベルで書くということのためには、文芸教室等で文章作法を一から学ぶ、という方向もあります。この方向は、遠いようでいて、文芸に触れる近道であるのかもしれませんが。
また、文学全集を読破するというぐらいの気構えが必要になりましょう。

広範囲のことに触れましたが、あくまでも、「海は文芸を愛し、文芸作品を書こうとする仲間を求めています。最初に書いた要件(2の『同人誌が成り立つ基本となるもの』の項)を満たし、「海の目標(「3の4」)」に同意いただける方には、是非積極的にお入りいただき、海を存分に活用し、おおいに利用していただきたい」と考えています。
どうぞ、前向きにご検討くださるよう、お願いします。
お問い合わせを、お待ちしております。

(付記)

- 1) 入会を検討するために、海冊子をご希望であれば無料で送付いたします。
希望される場合や、その他海全般についてのお問い合わせは、メール等でお願ひします。
(宛先：bungeiumi2@gmail.com) ……「+」は「@」に替えてください。
又は次あて
〒818-0101
太宰府市観世音寺1-15-33 松本方 海編集委員会
電話 090-1976-8119
- 2) その他は、海HPをご覧ください。

海HPは、「文芸同人誌海」で検索できます。

海の理念や各号作品（公開）→全ての記事、全作品を見ることができます。

ニュース、原稿・冊子作成要領、文章あらかると、お知らせ、編集時のあれこれ、Q&A、海入会希望者への説明等について、等をご確認ください。

- 3) 以上に賛同いただける場合、氏名（筆名で可）、住所、電話番号、文芸に関する略歴、簡単な作品（400字詰め5枚程度の作品をマイクロソフト・ワードで作成）を、メールで（宛先：bungeiumi2@gmail.com）あて送付ください。（+は@に置き替えてください）

令和6（2024）年3月30日 有森信二